

落花生の品種分類について

熊 沢 三 郎

九州農業試験場

Kumazawa, S. Varietal classification in the pea-nut.

1. 品種分類について

落花生の品種分類については一般に小粒種及び大粒種に二大別され、大部分の小粒種は立性とも呼ばれ、又大部分の大粒種は匍性であるため匍性種とも呼ばれる。

この分類法は用語や分類には適当でないが、落花生品種分類の基本をなすもので、Waldron氏はWhite Spanish, Red Spanish, Valencia, Tennessee Red, Tennessee Whiteのような立性小粒種を *subsp. fastgiat* 又 Georgia Runner, Jambo, Virginia Runnr, Virginia Bunch等の匍性大粒種を, *subsp. procumbens* となし、夫々ブラジルの野性種 *Apusilla*, *Aprostrata*より原生したものであらうと云つて居る。当分の品種研究でも枝、葉、早晚性、莢、種子、休眠性等に関する諸形質は各品種間に相当の連続変異があるに拘らず、第1表の通り二大分類間是不連続である。

第1表 品種の分類

Type	Runner		Bunch	
	1.Spanish	2.Valencia	3.Virginia	4.South East Runner
分枝の太さ	少大	少大	多細小	多細小
葉の大きさ	大	大	少	少
莢の形	楕円	長楕円	少短	少短
アントキアン着	相当多	長	短	短
毛開成耐草	長	稍短	短	短
枝の長さ	早	早	長	長
莢の厚さ	短	短	強	強
種子の大きさ	弱立	弱立	立	立
種皮の厚さ	長小	甚長	短大	短小
種皮の含脂	薄小	厚小	厚大	厚小
休眠	薄	薄	厚	厚
	灰白と赤	灰白と赤	銅	銅
	多弱	多弱	少強	多強

元来豆類は自家授粉度が高い為か、自然分類群の明示される場合が多い。落花生に於て、この二大分類は

多くの研究家によつて示されて居る通り交雑和合性で、又高度の相関を示す形質もあるが、分離は大体に於て正常であるから、かくの如く不連続な品種群の明示されるのは、本種の栽培の歴史が浅く、又F.Hull氏も述べて居る通り普通には自然交雑は起らないものであるから、両群間の雑種による品種造成の機会が稀であつたことによるものであらう。

然し乍ら、この二大分類を落花生の全品種に及ぼすことは第一に大粒種中に立くらだや Virginia Bunchの様な立性種があるので、立性、匍性の用語は適当でない。第二に小粒種中には Valencia の様に数形質に跨り不連続な異型群があり、匍性のものに South East Runner の様に大粒種と同様の草姿で小粒のものあり、又 Chevalier氏は *stenocarpa* に小粒、匍性種であることを報告して居るので、分類上にも妥当でない。それで熊沢は所謂小粒種或は立性種を Spanish type、大粒種或は匍性種を Virginia type と呼ぶことにして居る。そうするとこの二大群に入らぬものに Valencia type と South East Runner type が問題となる。

Valencia type を前に述べた Waldron氏等は Spanish type 中に包括して居るが、F.H.Hull氏は Runner 及び Spanish type より独立化せしめ三群に分つて居る。又同氏等は Virginia type との交配に於て Brachytic sterile の個体が生ずることを述べ、熊沢も本種と Virginia type である種子島との交配 F₂ に於て Brachytic sterile が16分の1出現することを確認して居り、第1表に見る通り多くの形質に於て Spanish type に類するが、Spanish type に比較すると葉は長形で稍濃色で、アントキアンは莖の先端まで現われ、主枝、側枝共に長く、莢は長形で1莢に3~4粒入り穀は厚い等稍趣を異にする。

故にこの type は Spanish type に関係あるものかも知れないが、実用分類上は勿論、自然分類上も或程度独立せしむべきものと考えらる。

次に South East Runner type. については昨年試作の結果、地上部は Virginia type、莢と種子は Spanish

第2表

代表品種とシノニム

代表品種	類似品種	シノニム品種	アメリカ代表品種
I-1. スペイン 2. 白なんきん 3. サウザン ク クロ ス 4. 金時	White Spanish** 千葉小粒 ジャバ12号* ラバウル* 赤なんきん	Improved Spanish** 沼津Ⅰ, 歪性種 沼津Ⅱ, 沼津Ⅲ, 三島, 利根 白油豆, 台湾小粒* サイゴン* セレベス* Red Spanish** 高落花	Improved Spanish Red Spanish
II-1. 飽託 2. バレンシア**	オーストラリア 登丸一号	廣州在來, 菊地在來, 供合在來 登丸2号, 登丸3号, 匍性, 油落花	Tennessee White Valencia Tennessee Red
III-1. 立路陀 2. 中國種 3. 千葉中粒 4. 種子ヶ島	早生なんきん 立落花 富崎中粒 富崎小粒 千葉中粒43号 千葉中粒55号 千葉大粒74号	Virginia Bunch** 中生なんきん, 這落花, 台湾大粒, 立性 浜名在來, 徳島在來, 富地在來, 球磨在來, 安廣種*, 阿蘇在來, 青島種*	Virginia Bunch Virginia Jumbo North Carolina Virginia Runner Jumbo
IV-1. Southeast Runner			South east Runner

(註) *は東亞地域より導入, **はアメリカより導入.

type のの特性をもつて居ることが判つた。この type の起源や分類上の取扱については不明の点が多過ぎる。

2. 實用形質に基く、本邦品種の 所屬並に類別

本邦、東亞及びアメリカの品種56点をこの4 type に分類し各 type 内の品種を實用形質につき比較した所、第2表及び第3表の通り大体に於て11の品種群と15の独立品種又は系統を挙げる事が出来た。

之をアメリカの該当品種と対比して見ると South East Runner 以外の各 type が經濟品種となつて居る事が解る。品種の分布状況は千葉、神奈川、鹿児島の様な要地の集團産地は Virginia type で、大部分が火山灰土に栽培されて居る。この内神奈川が立性で、千葉が高性であるのは神奈川の方が土質が幾分重く、

集約農業地帯である為と考えられる。Spanish type と Valencia type は北関東以北に分布すること又その地域に於ても集團産地をなして居ないことが指摘される。

3. 栽培條件に依る品種選擇上考慮 すべき諸点

(1). 氣象條件 高冷地の如く温度や生育日数不十分な場合は、Spanish type の多收品種サウザンクロス等が適當である。更に生育日数の短い地方ではスペインの様な最早種を用い、暖い所で育苗しし移植する方が良い。暖地でも8、9月に収穫したり、或は7月に播いて輪作度を高める為には同様の考慮が必要である。

(2). 土壤條件 土質が重過ぎて、収穫の困難な地方では、Spanish type の品種が適で、Virginia type の栽培可能な場合でも収穫稍困難な土壤では立性の

第3表

品 種 の 特 性

項 目	代表品種	スペイン	白なんきん	サクウザンス	金時	飽託	バレンシヤ	立駱駝	中國種	千葉中粒	種子ケ島	ライオン・サウス・1
		草の形質	立長短長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太
葉の形質	葉の形質	立長短長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太	立短長長少太
葉の質	葉の質	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
早晩	早晩	早短	早短	早短	早短	早短	早短	早短	早短	早短	早短	早短
耐病性	耐病性	弱	弱	弱	弱	弱	弱	弱	弱	弱	弱	弱
果実の形質	果実の形質	薄小短2	薄小短2	薄小短2	薄小短2	薄小短2	薄小短2	薄小短2	薄小短2	薄小短2	薄小短2	薄小短2
種子の形質	種子の形質	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱	小薄灰白多脆軟弱

Virginia type を選ぶ方がよい。又開拓地等の空蒔の多くなる土質では Spanish type が好成績を収める。

(3). 勞力條件 作付け面積が広い場合は坪当たり株数の少い匍性の Virginia type の方が播種、補植、除草、土寄せ等に属する勞力が少なくて済み、この反面立性の殊に Spanish type は收穫が容易で、軽い土質では手で抜くことが出来、脱穀機にかゝるので、收穫勞力は著しく少くなる。又密植、補植、土寄せによる増収率の高い作物であるから、集約管理の可能な場合も Spanish type や立性 Virginia が適する訳である。

(4). 用途 製菓や炒豆、輸出向きは Virginia type の大粒種、搾油や炒豆用は Spanish type の多收品

種がよい。又赤粒も炒豆用には嗜好上重要である。

4. 結 語

以上述べた諸点は、昭和18年以來現在迄に實際品種導入をして、品種試験を行つた結果に基づく分類の大要であつて、今后甘藷の転作物等として取上げられるに當つては、先ず一般の生活と農業に取入れ、過剩分は輸出や都市加工に出廻すが如き体制を整え且つ栽培條件に適合した品種を選択する必要があると考える。更に我々はこの育種過程を経て居ない作物に対し、育種の効果を十二分に發揮せしむる必要を痛感する次第である。